

平成 23 年度
(2011 年度)

事業計画書

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

平成 23 年度事業計画書

・事業の目的

本法人は、わが国の映像文化並びに映像産業の振興を通じて文化的で豊かな国民生活の実現を目指すとともに、海外に対してわが国の良好なイメージを発信し、国際友好と文化及び産業交流の増進を図ることにより、広く公益に寄与することを目的とする。(定款第 2 章第 3 条)

・今年度事業の方針

1. 東京国際映画祭を通じて、映画・映像文化の向上と国際交流の増進を図るという一貫した方針の下、JAPAN 国際コンテンツフェスティバル 2011(コ・フェスタ)と連携をとり、海外からの主要ゲスト招聘強化を維持するとともに、いまや世界的な潮流であるエコロジーの視点から地球環境への貢献をテーマとして映画祭の企画に取り込む。
2. 日本の映画・映像コンテンツの海外展開に対する支援事業により、我が国の映画・映像文化の国際化を促進する。
3. 公益財団法人としての各種事業の公益性、社会的使命の構築と効率的運営を追求する。

・事業の内容

第 4 条に基づき以下の事業を行う。

1. 東京国際映画祭の開催及び同映画祭に付随する各種シンポジウム、見本市、研究会の開催
2. わが国の映画・映像コンテンツの国際振興に係る普及啓発及び調査研究並びに提言事業
3. 優秀映画・映像の顕彰及び人材育成事業
4. 前各号に掲げるものの外、本法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 国際映画祭事業

名 称: **第 24 回東京国際映画祭**

主 催: 公益財団法人ユニジャパン

期 間: 平成 23 年 10 月 22 日(土)から 10 月 30 日(日)までの 9 日間

企 画: 自主企画部門、共催企画部門、提携企画部門

開 催 会 場: 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、他に都内各所の劇場・ホール・施設を使用して開催

共 催: 経済産業省(マーケット部門) / 東京都(コンペティション部門)

(予 定)

後 援：総務省／外務省／環境省／観光庁／財団法人 JKA／独立行政法人国際交流基金
 (予 定) 独立行政法人日本貿易振興機構／港区／社団法人日本経済団体連合会
 東京商工会議所／一般社団法人日本映画製作者連盟
 一般社団法人映画産業団体連合会／社団法人外国映画輸入配給協会
 モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)
 全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合
 財団法人角川文化振興財団
 公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
 財団法人デジタルコンテンツ協会／社団法人デジタルメディア協会
 社団法人日本映像ソフト協会／特定非営利活動法人映像産業振興機構
 東京国立近代美術館フィルムセンター
 補 助：財団法人 JKA(競輪公益資金)
 助 成：文化庁
 協賛・協力：団体及び民間企業各社 30 数社 (予 定)

【主要上映企画】

(1) 「コンペティション部門」(共催：東京都)

本映画祭の主要部門として、映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際文化交流に寄与することを目的に、2011年1月以降に完成した35ミリ及びデジタルの長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備選考を経た15本(予定)を会期中に上映する。

各作品の上映後に、招聘したゲスト(作品関係者)によるQ&Aを行ない、観客との交流の輪を広げる。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6人(内、日本人2名)で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行ない、10月30日の閉会式会場で東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞を発表し、東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドルを賞金として贈る。併せて東京サクラグランプリ受賞作品には東京都知事から賞状とトロフィー(麒麟像)が贈られる。

また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られる。

(2) 「特別招待作品部門」

国内未公開の話題作品を20本(予定)上映する。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に繋げる。

(3) 「アジアの風部門」

世界の映画界で最も活気のあるアジア圏の国や地域で製作された作品の中から、優れた作品25本(予定)を選んで上映する。

上映作品の製作者や作品スタッフを招聘して、国際映像マーケットにも参加してもらい、日本の映画・映像業界との文化交流をはかるとともに、アジアの映画産業の発展に繋げる。

上映作品の中から、アジア映画賞審査委員会により選ばれた1作品に対して「最優秀アジア映画

賞」として賞金 1 万米ドルが贈られる。

(4) 「**日本映画・ある視点部門**」

活況を増している日本映画を対象に、テーマ別にある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画。個性に溢れた多様性のある作品を 10 本(予定)上映する。

上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、賞状と賞金 100 万円が贈られる。

(5) 「**ワールドシネマ**」

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未配給の作品など、世界で話題になっている新作の数々をいち早く紹介していく、洋画ファンにとって待望の企画。

(6) 「**natural TIFF**」

「エコロジー」や「自然と人間の共生」というテーマに合う優れた作品を上映する、第 21 回からの企画。本年度も、昨年以上に優れた作品を集めるべく、その詳細を検討中である。

(7) 「**ニッポン・シネマ・クラシック**」(仮称)

日本映画史上の不朽の名作を独特の切り口で特集して、その真価を改めて見直すとともに、日本映画の新しいファン層と潜在観客層の掘り起こし及び海外へ向けての発信を目的とする。

なお、上記の全部門の上映作品を対象として、「エコロジー」や「自然と人間の共生」というテーマに合う、もっとも優れた作品に対して「**TOYOTA Earth Grand Prix**」を授ける。

【関連上映企画】

(1) 「**第 24 回東京国際女性映画祭**」(主催：東京国際女性映画祭実行委員会)

東京国際映画祭と同時にスタートした「東京国際女性映画祭」も昨年までで 23 回を数えた。今年も、世界各国の女性監督が、未来への誠実な願いを込めて取り組んだ作品を紹介する。

(2) 「**ショートショートフィルム フェスティバル**」(主催：ショートショートアジア実行委員会)

本年 6 月開催の「ショートショートフィルム フェスティバル 2011」の授賞作品を上映する。

期 日：平成 23 年 10 月下旬

会 場：東京都写真美術館 映像ホール

(3) 「**みなと上映会**」(共催：東京国際映画祭みなと委員会)

港区内の商店会、自治会、町会で結成された東京国際映画祭「みなと委員会」との共催企画。子供から大人まで楽しめる作品の上映とイベントを企画している。

(4) 「**コリアン・シネマ・ウィーク 2011**」(主催：駐日韓国大使館 / 韓国文化院)

今年で 11 回目を迎え、ファンも年々増加している。今年も、韓国映画を代表する作品の数々を上映する。

(5) 「**第 4 回したまちコメディ映画祭 in 台東**」

下町は多くの芸能人を輩出した町。今年も、浅草や上野を舞台に映画の上映と各種イベントで下町を盛り上げる。浅草の雷門にレッドカーペット。

(6) 「2011 東京・中国映画週間」

(共催：中国国家広播電影電視総局電影管理局 / 日中友好映画祭実行委員会)

豪華なゲストを招聘し、最新の中国映画を上映する。

(7) 顕彰・助成事業

コンペティション部門における東京サクラグランプリ 他、優秀な作品、監督、俳優に対する顕彰
アジアの風部門における優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)

日本映画・ある視点部門における優秀作品に対する顕彰

フィルムライブラリー活動に対する助成として、製作者の承認を得て、優秀作品のプリントや映画資料を東京国立近代美術館フィルムセンターへ寄贈

(8) 東京国際映画祭公式サイト(<http://www.tiff-jp.net/>)の運営

映画祭に関する全情報の発信基地となる公式サイトであり、東京国際映画祭への作品応募の窓口となり、映画祭参加作品の紹介を行うなど、多目的に機能させていく。オープニング行事のグリーンカーペットの LIVE 中継をはじめ、会期中のイベントの様態を動画で配信し、臨場感溢れる映画祭の情報を提供している。

【マーケット企画(TIFFCOM)】

名称： TIFFCOM2011 Marketplace for Film & TV in Asia

主催： 経済産業省(METI)、公益財団法人ユニジャパン

会場： 六本木ヒルズ 森タワー、アカデミーヒルズ 49 他

期間： 平成 23 年 10 月 24 日(月)～10 月 26 日(水) 9:00～18:00

- 連携企画： 国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2011
- 出展対象： 映画、テレビ、アニメーション、デジタルメディアコンテンツ、コミック、出版など
- 公式WEBサイト： <http://www.tiffcom.jp/>
- TIFFCOM2010 実績から： 出展団体数(222)、来場登録者数(4,162)、登録国・地域数(56)

(2) コンテンツ国際振興支援事業

公益財団法人ユニジャパン定款第 4 条の規定に基づき、経済産業省、文化庁、観光庁の委託事業、また本法人の自主事業、他団体の共同事業として以下の公益目的事業を行う。

【展示出品支援事業】

(1) 映画祭・映画賞出品支援

日本映画・アニメ、また日本の映画・アニメ製作者が海外の映画祭・映画賞に参加するために必要な、字幕制作費、渡航費、宣材制作費を支援する。

(2) 日本映画情報展示スペース

海外の主要映画祭・映像マーケットにおいて、日本映画・アニメ情報センターとなる展示スペースを設置し、各国の映画祭関係者に対して情報提供サービスを行う。

(3) DVD ライブラリー

各国映画祭関係者が新しい日本映画を視聴できる「DVD ライブラリー」を本法人内に設置、また国内外の映画祭・映像マーケット会場内に視聴ブースを設ける。

【海外展開支援事業】

(1) マーケット事業

上記 TIFFCOM2011 の制作・運営を行う。また、海外の映像マーケットにおいて、展示出品支援事業と連動し、日本映画・アニメの共同セールスブースを出展する。

(2) 外国映画のロケーション撮影支援

ジャパン・フィルムコミッションと連携し、誘致を促進するためのインセンティブを立案すると共に、外国映画・テレビの日本でのロケーション撮影を支援する。

(3) 国際共同製作支援

文化庁国際共同製作支援事業と連携し、国際共同製作案件の評価を行う他、国内外の映画製作者のマッチングやネットワーキングを支援する。

【情報発信事業】

(1) 海外向け日本映画データベース「JFDB」

日本映画・アニメの作品情報、日本の映像関連企業・団体のコンタクト情報を、日英バイリンガルでデータベース化する。

(2) 海外向け日本映画年鑑「Japanese Film」

平成 23 年に劇場公開される代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、映像関連企業及び団体のコンタクト先を掲載、主要映画祭・映像マーケットにて配布する。

(3) ユニジャパン・ニュースレター

世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報、マーケット情報を掲載したメールマガジンを隔週で発行、国内外の映画関係者に配信する。

【調査研究事業】

(1) 海外ネットワーク構築

本法人の各支援事業を推進するため、世界各国、特にアジア各国のコンテンツ振興機関とのネットワーク作りを強化し、国際共同製作協定締結に向けて環境整備を行う。

(2) 人材育成事業

次世代のコンテンツ産業を担うべき若いプロデューサー育成のための留学支援を行う。また、「ぴあフィルムフェスティバル」を共催し、若いクリエイターの発掘・育成を行う。

(3) シンポジウム、セミナーの開催

東京国際映画祭に会期を合わせて、コンテンツ国際ビジネスをテーマとした連続シンポジウム企画「ユニジャパン・エンタテインメントフォーラム」を開催する。

以 上